



令和6年2月

公益社団法人埼玉県精神保健福祉協会
会長 菅野 隆

<事務局>

埼玉県北足立郡伊奈町小室 818-2

埼玉県立精神保健福祉センター内

TEL / FAX 048 - 723 - 5331

HP <https://kokoro-saitama.com>

やすらぎ第73号 目次

- <報 告> 令和5年度 定時総会・協会長表彰式
彩の国ふれあいピック秋季大会に参加しました
みんなで楽しもう！卓球交流会開催
高畑隆副会長 文部科学大臣から表彰されました

令和5年度定時総会・協会長表彰式

令和5年6月3日(土)午後。前日から早朝にかけての荒天から一転し、雨上がりのさわやかな青空のもと、ヘリテイジ浦和別所沼会館で令和5年度の定時総会と、協会長表彰式が執り行われました。

菅野隆会長の挨拶ではじまり、来賓の埼玉県福祉部障害者福祉推進課長茂木様、埼玉県保健医療部疾病対策課長根岸様からもご挨拶を賜りました。

議事は、令和4年度事業報告及び決算報告(案)、令和5年度事業計画及び予算(案)、令和5、6年役員(案)の順で執り行われました。



その後、令和4年度のこころの健康プロジェクトの助成団体から、事業実施のご報告をいただきました。

「こころの健康プロジェクト」とは、県内で精神保健福祉の向上を目的に活動している団体の事業に係る

経費の一部を助成するものです。

令和4年度は「埼玉ソーシャルフットボール協会(埼玉カンピオーネ)」「埼玉県障害者バレーボール協会精神障害部門」「こころのカフェの会」「リカバリーお届け隊」4団体の4つの事業に助成しました。

各団体の皆さまからは、事業の様子について写真なども用いながら、丁寧にご報告いただきました。ご報告の内容から、各団体の皆さまが埼玉県内での精神保健福祉の発展はもちろんのこと、人生を豊かにするためのご活動を担い、推進してくださっていることがよくわかりました。



埼玉県精神保健福祉協会会長表彰は、埼玉県において精神保健福祉の向上に献身的な努力をしている個人及び団体を表彰しています。

今年度は、

地域精神保健福祉推進者永年勤続表彰	8名
地域精神保健福祉推進者功労表彰	5名
地域精神保健福祉推進団体功労表彰	3団体
精神保健福祉協会活動特別功労表彰	1名

以上の方々が受賞されました。

荒天の影響で公共交通機関の乱れもある中、遠方からも表彰式にお越し頂きありがとうございました。皆さま、晴れやかな表情でご受賞いただきました。

皆さまおめでとうございます。今後も引き続きご活躍をお祈り申し上げます。

受賞された個人及び団体は当協会のホームページにおいて公開しておりますので、ぜひご覧ください。

彩の国ふれあいピック秋季大会に参加しました

令和5年9月24日(日)、どこまでも澄み渡る青空の下、熊谷スポーツ文化公園にて令和5年度彩の国ふれあいピック秋季大会(第36回県民総合スポーツ大会兼第22回埼玉県パラスポーツ大会)が開催されました。

当協会は、埼玉県グラウンド・ゴルフ協会にご助力いただき、補助陸上競技場でのグラウンド・ゴルフの体験ブースを担当しました。

この大会は、県内在住在学在勤の10歳以上の身体・知的・精神障害がある方が参加でき、体力の維持・向上と社会参加の推進を図るために、毎年開催されている県内最大のパラスポーツイベントです。

さまざまなスポーツを体験出来るイベントとして、全体で20競技種目の体験ブースの他、健康・体力測定コーナー、スタンプラリーなども行われました。また、キッチンカーや事業所の製作品の販売などもありました。

グラウンド・ゴルフは、延べ118の方が体験してくださいました。「難しいと思ったけれど、やってみたら楽しい。」「とても面白かった。グラウンド・ゴルフを自宅近くでできる場所があるといいな。」などの感想が聞かれました。

今まで知らなかったパラスポーツもたくさんあり、体験できるこの機会、来年度は是非皆さんも参加してみたいでしょうか。



みんなで楽しもう！卓球交流会(第49回埼玉県精神保健福祉卓球大会)開催

広報編集委員 佐藤 榎本



令和5年9月27日(水)浦和駒場体育館にて、「みんなで楽しもう！卓球大会(第49回埼玉県精神保健福祉卓球大会)」が開催されました。今年度は、コロナ禍で参加を見送っていたチームが久しぶりに参加し、Sリーグ(勝負を楽しみたい選手で構成)5チーム、Kリーグ(交流を楽しみたい選手で構成)5チームの計10チームで交流しました。



参加選手からは、「初めてなので緊張している。」、「運が大事だと思っている。」、「早く大会に参加したかった。」など、様々な思いを持って今大会に参加する様子が伺えました。

今回はSリーグ4コート、Kリーグ4コートで試合が行われました。緊張した面持ちでコートに入り、真剣な眼差しでサーブを構える様子や、鋭いスマッシュを相手コートに打ち込む選手の様子は、真剣勝負そのものでした。また、選手を応援するチームの様子も印象的でした。うちわを持って応援するチーム、メンバーの活躍に拍手でエールを送るチームなど、各チームが様々な形で選手を応援していました。

試合を終えた選手にお話を伺うと、「相手のボールが浮いて打ちにくかった。」、「もっと見直すところがあった。次の試合は頑張りたい。」、「楽しくできた。」、「相手の出方を見ながら、考えてプレーをした。」、「いつも同じ人とばかりだったので、違う人と試合ができてよかった。」と試合を振り返っていました。

相手のプレースタイルを見極めて試合に臨む選手、初めての相手との試合を楽しむ選手、学生以来の卓球だったという選手、皆さんそれぞれ、今

回の大会を楽しんでいたようでした。また、この大会では試合中のボールがベンチに入ってしまった際に、そっとボールを選手に手渡し、他の試合の邪魔にならないようにコートを移動するなど、選手やチームの素晴らしい気遣いも見られました。

大会の最後に、Sリーグの審判としてご協力いただいたさいたま市卓球協会の方から「一生懸命ボールを追い、絶妙な球で相手を振り回し、動いて取る、狙いを定めてのスマッシュのタイミングの良さ、観ていてすごいなと思いました。たくさん練習の成果が出たと思います。これからも頑張ってください」と講評をいただきました。

これまではコロナ禍ということもあり、様々な制限がありました。新型コロナウイルス感染症の感染症法上の位置づけが変更され、現在は交流や様々な活動が再開されてきています。今回、久しぶりに参加をされたチームもあり、各チームの大会参加や勝負を楽しんでいる様子がとても印象的でした。

最後に、試合前後にも関わらず、当執筆にご協力いただいたチームの皆さま、選手の皆さまに厚く御礼申し上げます。



卓球交流会アーカイブ



高畑隆副会長が文部科学大臣から表彰されました

令和5年10月13日、当協会の高畑副会長が、令和5年度生涯スポーツ功労者として文部科学大臣から表彰されました。おめでとうございます。

高畑副会長は、やどかりの里の創設から当事者会及び家族会支援等、精神障がい者の地域活動や社会参加に長年関わってこられました。その経験から、日常生活の中での仲間づくりと社会参加に向けて、スポーツを含む身体活動(合唱、ダンス、ニュースポーツ、ゲーム等)を推進してこられました。

当協会では、1999(平成11)年から各種専門委員会の委員として活躍され、2007(平成19)年からは理事として、2015(平成27)年からは副会長として多方面でご協力いただいています。当初から、バレーボール、グラウンド・ゴルフ、音楽祭、卓球等の各種スポーツ大会の推進に尽力いただきました。更に全国障害者スポーツ大会へ精神障がい者の参加を推進され、2008年(平成20年)には団体競技バレーボール、2019年(令和元年)には個人競技卓球が正式競技となりました。また、競技スポーツの推進では、スポーツ精神医学会関係者と共に、精神障害フットサルの全国組織(ソーシャル・フットボール協会)作りと全国大会を推進してきました。

<<受賞にあたり、高畑副会長からのコメント>>

今後、多くの選手や皆さまと多様な身体活動・スポーツや競技スポーツを推進し、何時でもどこでも誰もがスポーツを楽しみ笑顔と笑いがあふれ、名前と顔を出して、生涯の楽しみや競技性の高いスポーツへ参加ができると幸いです。このたびの受賞では、精神障がい者の身体活動・スポーツを各地で推進している参加者・選手・関係者の皆さまに厚くお礼申し上げます。

<主な賞歴>

2015(平成27)年

一般社団法人埼玉県障害者スポーツ協会 名誉会長特別表彰

2017(平成29)年

公益財団法人日本障がい者スポーツ協会 特別功労賞

